Taka Ishii

Gallery

6-5-24 3F Roppongi Minato-ku Tokyo #106-0032, Japan
tel +81 (0)3 6434 7010
fax +81 (0)3 6434 7011
web www.takaishiigallery.com
email tig@takaishiigallery.com

杉浦邦恵「境界と共存」
会期：2025 年 7 月 19 日（土） – 8 月 23 日（土）
会場：タカ・イシイギャラリー 六本木、京橋
オープニング・レセプション：7 月 19 日（土）17:00 – 19:00

この度、タカ・イシイギャラリーは、7 月 19 日（土）から 8 月 23 日（土）まで、杉浦邦恵の個展「境界と共存」を開催いたします。杉浦の制作は、複数のメディウムを自在に横断するメディアを横断する創作姿勢に特徴づけられています。彼女は、日本とアメリカ、自然と人工、絵画と写真といった二項対立的な要素を、対立させるのではなく、緊張感を保ちながら共存させることによって、二文化的なアイデンティティを繊細かつ力強く表現してきました。その根底には、写真を絵画や彫刻と同等の芸術表現として確立したいという確固たる意志があります。本展では、六本木と京橋の 2 会場を舞台に、杉浦の長年にわたる創作の軌跡をたどります。

六本木会場では、彼女がシカゴ美術館附属美術大学在学中に制作した《Cko》シリーズ（1966～1967 年）を紹介します。この初期代表作は、彼女の芸術的探求の原点であり、異文化の中で感じた孤独や疎外感と向き合う中で生まれました。魚眼レンズを用いてヌードモデルを撮影し、カラーとモノクロのネガを重ねることで、被写体を歪め、再構成された像が生み出されています。ソラリゼーションやネガへの漂白剤の筆塗りなど、意図的操作と偶然性を融合させた実験的な手法も、このシリーズの大きな特徴です。すでにここに、のちのフォトペインティングやフォトグラム、X 線写真シリーズへとつながる、メディアの境界を越える姿勢が芽生えていることがうかがえます。「Untitled 3」(1970 年)は、《フォトキャンバス》と呼ばれるシリーズ（1968～1972 年）で、作家自身が写真乳剤を塗布し、撮影したネガを暗室で露光し、現像したキャンバスにグラファイトで加筆した、写真・絵画が融合した表現が展開されます。会場には新作として 1990 年代から 2000 年代にかけて取り組まれた X 線写真シリーズと融合した、「Fever」(2021 年)、「Nina's Pelvis & Leg」(2024 年)、そして「Oral」(2022 年)を紹介します。医療用ネガを素材とし、異なる出自のキャンバスからなる構成になっています。これらの作品群は、視覚芸術と科学の境界を探求すると同時に、人体の内部構造を詩的かつ象徴的に表現し、生命の神秘や脆さを鮮やかに可視化しています。

京橋会場では、1980 年以降継続して取り組まれてきたフォトグラム作品に焦点を当てます。花や動物、小さな生物、そして人間のシルエット、本展で紹介する「The Kitten Papers」(1992 年)では、夜中の子猫の生命の気配を宿らせています。光と影のコントラストによって引き出される存在感は、日本的なか弱さと儚さの美学とも共鳴し、東洋と西洋の文化が調和した、杉浦ならではの表現スタイルを物語ります。初期のフォトグラムである「Attenuated Head」(1986 年)では、砂をまいて細長い頭部を表現するなど、様々な材料で頭、身体を描き、1980 年代初期は抽象のイメージと融合させました。1989 年以来、花が多く主題に選ばれ、本展では並列して展示されているボタニカス、切花、スタックスなどのシリーズが生まれました。

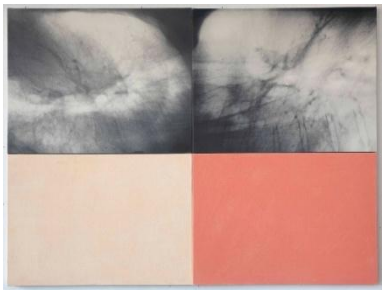
杉浦はそのキャリアを通じて、写真、絵画、そして芸術そのものの慣習に対して、静かに、しかし一貫して挑戦してきました。彼女の作品は声高に主張することはありませんが、調和と緊張の深い内的なバランスを内包しており、彼女独自の芸術的なビジョンを形作っています。写真の表現の可能性を広げながら、彼女は視覚芸術における新たな領域を切り開きました。そこから生まれる作品は、光と影、存在と不在、そして科学と芸術の出会いといった本質的なテーマへと、私たちを静かに誘ってくれます。

杉浦邦恵は名古屋市生まれ。現在ニューヨークを拠点に活動。1967 年シカゴ美術館附属美術大学学士課程修了。同大学在学中、コンセプチュアル・フォトグラファーであるケネス・ジョセフソンに師事したことを契機に、以後、50 年近く写真による多様な表現を提示し続けてきた。60 年代のカラー写真、70 年代のキャンバス上に写真とアクリルを塗付した写真作品、80 年代から始まる日常生活のモチーフを定着させたフォトグラムなど、写真とその他の媒体との関係、写真における「もの」とその抽象化の表現について探究を続けている。人生をとりまく時や光、うつろう自然の儚さとその記憶を捉えた杉浦の作品には、具象性と抽象性、即興と構築といった相反要素が共存している。主な個展として「Kunié Sugiura: Photopainting」サンフランシスコ近代美術館（開催中〜2025 年 9 月 14 日)、「杉浦邦恵　うつくしい実験／ニューヨークとの 50 年」東京都写真美術館（2018 年)、「Time Emit」Visual Arts Center of New Jersey（サミット、2008 年)、「Dark Matters / Light Affairs」カリフォルニア大学リチャード・L・ネルソンギャラリー&ファインアーツコレクション（デイヴィス、2001 年）などがある。これまでに、第 23 回東川賞 国内作家賞（2007 年)、Artist ‘s Fellowship, New York Foundation for the Arts（1998 年）を受賞。作品は、デンバー美術館、ボストン美術館、ニューヨーク近代美術館、東京都写真美術館に収蔵されている。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願いいたします。尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー 展覧会担当：岡本夏佳 プレス担当：野田舜士（press@takaishiigallery.com）
Seiya Nakamura 2.24 Inc.　田邉友里恵（yurie@seiyanakamura224.com）

タカ・イシイギャラリー 六本木：〒106-0032 東京都港区六本木 6-5-24 complex665 3F
tel: +81 (0) 3 6434 7010　fax: +81 (0) 3 6434 7011　営業時間：12:00-19:00　定休日：日・月・祝祭日
タカ・イシイギャラリー 京橋：〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-1 TODA BUILDING 3F
tel: +81 (0) 3 6434 7010　fax: +81 (0) 3 6434 7917　営業時間：11:00-19:00　定休日：日・月・祝祭日
e-mail: tig@takaishiigallery.com　website: www.takaishiigallery.com



杉浦邦恵
「Fever」2021 年
ピグメントプリント、キャンバスにアクリル絵具
106.6 x 142.2 cm

© Kunié Sugiura